

第5回四日市市大学構想策定委員会 議事要旨

1. 日時

令和6年3月8日（金）午後3時00分から午後4時25分まで

2. 場所

本部員会議室

3. 出席者

（策定委員会委員）

谷口 研二委員長、近藤 元博委員、加藤 真紀委員、種橋 潤治委員、堀 加奈委員、
館 英次委員

（アドバイザー）

一般社団法人国立大学協会審議役 玉上 晃、国立大学法人三重大学理事 吉岡 基

（四日市市）

荒木政策推進部長、渡辺政策推進部理事、矢澤政策推進課長、加藤政策推進課副参事
（事務局）

櫻井政策推進課付主幹、井上政策推進課主幹、河合政策推進課主幹

4. 議事要旨

(1) 四日市市大学設置に係る基本構想策定

四日市市に設置する大学について、前回までの委員会での審議をまとめた四日市市
大学設置に係る基本構想案について、各委員にて審議。（別添資料1）

【以下委員会内における基本構想についての委員意見】

- ・大学設置に対して期待する人も多い。実現に向け取り組んでほしい。
また、少子化が進む中なぜ大学をつくるのかという一般的な疑問への答えとしては、
産業に貢献し、地域のイノベーションを起こすために大学が必要であるということに
なる。地域で通え、学び直しができ、子どもたちが高等教育機関に身近に接すること
ができるのは良いことである。地域で進学したい大学がなく人材の流出があることを
考えると、この地域で学べる場は必要である。

- ・四日市市の主要産業であるコンビナートを例にとっても、GX 移行債（2050 年にカーボンニュートラルを実現するために発行する国債）がスタートすることを考えると、次世代エネルギーとして期待される水素・アンモニアの利活用など、事業自体が変わることから、それに伴う人材が求められ、この地域の産業を守るために人材を養成する必要がある。
- ・科学イベント等から子どもが地域産業に触れられる機会を増やすべきで、その点で駅前というのはアクセスが良く、まちと大学が一体的であるとよい。
- ・複数大学が同じ建物にあると、組織が複雑になってしまわないか。それぞれ独立しつつ、お互いに協力するという意識をもつとよい。
- ・先端分野では教員が不足する恐れがある。プロジェクトベースで他大学の教員を活用するなど流動的に考えてはどうか。
- ・片道通学時間の目安が 90 分以内という点については、駅前の大学設置に優位性がある反面、逆に四日市市民が通学できる市外・県外の大学が多くあるということになる。だからこそ、四日市市が設置する大学の魅力や必要性を強くいう必要がある。
- ・建物を作ることが大学をつくることではなく、学生が生きる力をつけることを目的とすると、身近に大学があることで、子ども達が知へのあこがれを持ち、こういう所で勉強したいと感じてもらうことが重要である。大学開学までの時間で産学連携など手がけられることはあり、すでに準備は始まっている。
- ・高校時代に大学の講座を受けられるなど、大学教育から将来働くイメージを持つことができるよう、高大連携を進めるべきである。
- ・学生の裾野の広げ方は大きなテーマであり、高専生の受け入れのため別途枠を設けてもよい。

(2) 次年度以降における大学構想の検討について

本委員会の意見を受けて策定した構想に基づく、来年度以降の検討予定について事務局から説明。その後、各委員、アドバイザーから委員会に対する所感を述べていただいた。

- ・（事務局）学部、学生数、施設の内容などを来年度基本計画で決めていく。
令和 6 年度には政策推進課内に大学構想推進室を設置する。
- ・産業が衰退し、地域から若者が流出し人材が不足する中で、若者定着のための大学を作りたくてもできない地域もある。その一方で、四日市市はそうなる前に大学設置を検討できているので、大学を活用することで産業を維持し、四日市の発展につなげてほしい。

- ・大学の存在自体が大きな意味を持つ。設置される大学が四日市の子ども達の進学を選択肢となるよう取り組んでほしい。
裾野の広げ方として、小中学生が大学を身近に感じることができるキャリア教育が重要である。
- ・産業界は今の上だけでは良くなく、社会の変化に合わせて変化する必要がある。地域の産業界を変えるためにも大学を作ってもらいたい。
- ・市長の熱意を感じた。地域の発展なくして大学はない。逆も同じで大学なくして地域の発展はない。
- ・次年度以降具体的な議論になる。高校生同士で入りたい大学について議論してもらっても良いのではないか。

以上

第5回 四日市市大学構想策定委員会 事項書

日時：令和6年3月8日（金）15時00分～

場所：市役所 6階本部員会議室

1. 四日市市大学設置に係る基本構想策定・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料1

2. 次年度以降における大学構想の検討について

3. その他

以上